

# PHD LETTER

## 95

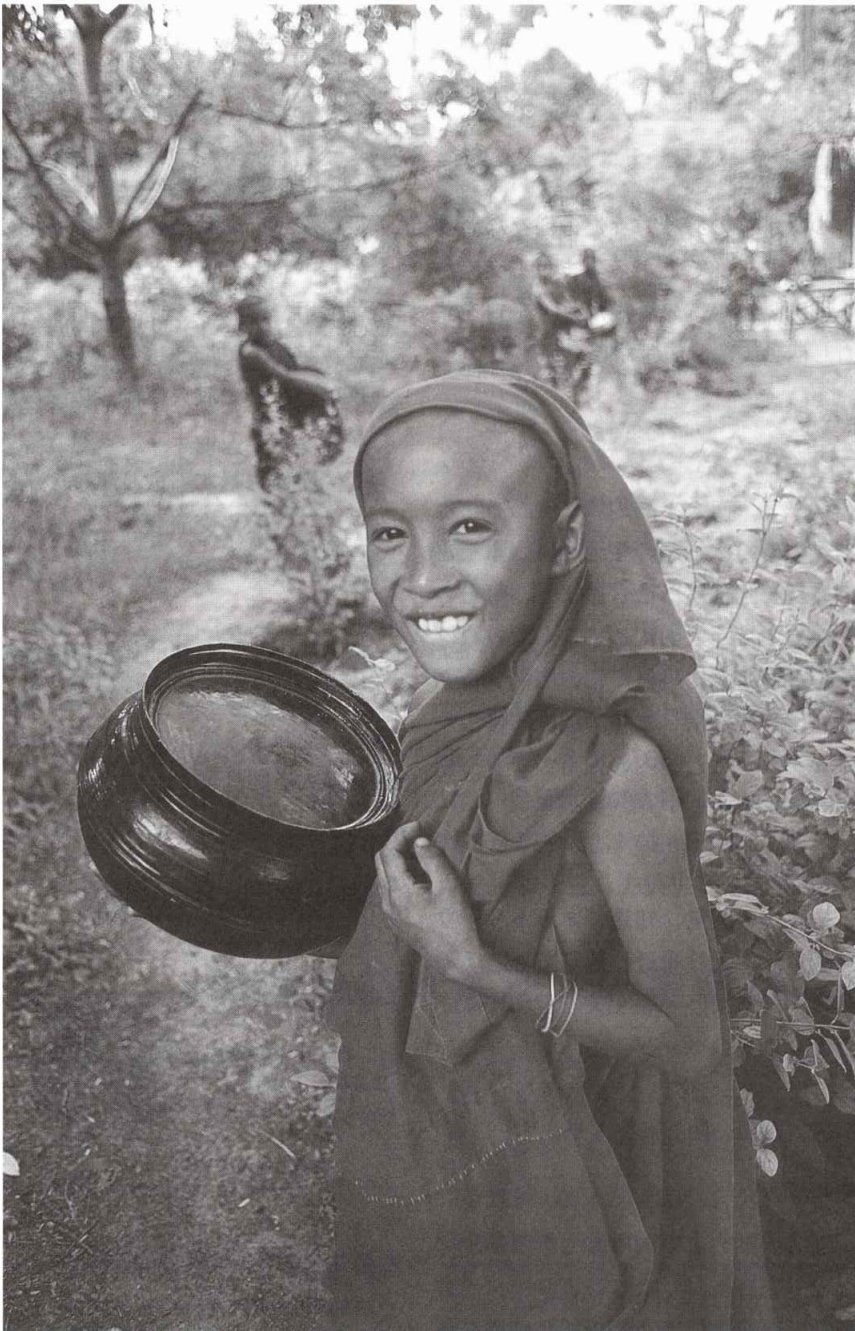
PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

2005.6

- 変えるところ、変えないところ . . . P.2
- 23期生 到着しました . . . P.4-5
- 研修生の村に学びに行こう！ . . . P.6

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり（Peace）健康づくり（Health）を担う人材をつくる（Human Development）運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行： 財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄  
編集人： 藤野 達也  
住所： 〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202  
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867  
E mail： phd@mb1.kisweb.ne.jp  
U R L： <http://www.kisweb.ne.jp/phd>  
定 価： 100円  
郵便振替口座： 財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
01110-6-29688



村のお寺の小坊主さん。  
仲間と一緒に村をまわって  
托鉢に。  
剃った頭と漆の器が  
とてもつややか。

ビルマ、マンダレー近郊 撮影 FUJINO T.

## 2005年度 事業計画

## 変えるところ、変えないところ。25年目のPHD。

岩村昇医師のネパールでの医療協力の経験をもとに、PHD協会の活動が始まったのが1981年。平和と健康を担う人が育つことを願う草の根の人々による交流を続けてきました。即効的な支援も大切ですが、長期的な視野にたった、構造的な原因の解決の基本として「人づくり」を考えています。この点に変化はありません。しかしグローバル化の拡大は村の生活にも影

響を及ぼし、村人の意識や必要に変化が出ています。経済発展を中心とする生活の変化は、好ましい面ばかりでなく、いくつもの問題を合わせ持ちます。単に技術、知識を学ぶのではなく、それが社会を構成する大部分の人への益となるような使い方がますます必要になってきています。

そのためには、これまでの事業の枠のままでは対応しきれなくなってきています。研修、啓発、総務・財務の内

容を急に大きく変えることは難しいですが、その改革が始まるきっかけの1年にしたいと考えてます。PHDにかかわる皆さんの力を活かすことのできる体制づくりを土台に、研修・広報のあり方の再考を進めていきます。

職員の交代がありはじめは慣れない点もあろうかと思いますが、皆さんのご協力を得て乗り切っていきたいと思

総主事代行 藤野達也

## 研修

海外からの招へいは3人。プログラムの数は押さえ、その中で招へい、研修内容、フォローアップのあり方を再検討します。良い点を残し、不十分なところを改善するため、研修事業をとりまく方々の意見を一層取り入れていきます。

## ■23期生

昨年度と同じ地域から迎える3人。これまでの蓄積をより活かすため研修生と密なやりとりを行います。農業を中心とする3人ですが、各人に保健衛生、栄養の基礎も学んでもらいます。

また、今まで以上に地域、地元をどういきいきしたものにしていくかというテーマを各地の実践から学ばせていただくと思います。概ね同じ研修項目となるため、兵庫県内にとどまらず県外の研修先も必要となります。これまで実績の少なかった地域での実施もすすめます。研修が中心ではありませんが、その合間に多くの皆さんとの交流も可能になります。

## ■海外調査・フォローアップ

より充実した日本での研修と帰国後の成果をあげるため、招へい先の地域との関係を再考します。従来の窓口のみならず新しいところの検討もはじめます。また、日本からの調査、フォローのあり方にも、新しいアイデアを取り入れていきます。

## 啓発

つながりのある方々との様々な活動を基盤とし、そこから生まれる交流から、国際協力への手掛かり・糸口を共有し活動の輪を広げたいと思います。

## ■プログラム

アジア・南太平洋地域に関わることで見てくる私達の生活。研修事業との連携を強化することにより、毎日の生活の中で、大切にしていかなければならないことに気付く幅の広いプログラム作りを目指します。国内研修生やインターンなど国内の人材づくりも積極的におすすめです。

## ■広報活動

皆さんの感覚、知恵、ネットワークを活かし、より身近に感じてもらえる広報となるよう一層工夫を重ねます。会報やホームページ、ちらしも楽しいものにしていきたいと思います。新しい広告媒体の研究もすすめます。

## ■物品販売

当会活動および国際協力への参加のひとつのきっかけとなるよう、タイカレンの布をはじめ今年は新しい商品も登場します。交流会の開催やバザーの参加、委託先を開拓してより多くの人々にふれてほしいです。

## 総務・財務

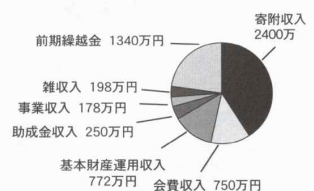
役員ならびに評議員はじめ各地の協力者やボランティアとの連携強化及び情報活用、それらを通して新規会員の獲得、支援者の拡充に努めていきます。

寄付金、会費収入に創設以来の厳しさが見込まれています。これまでの協力者・団体に対する取り組みの継続をもとに、講演や交流会などからの新規支援層の拡大に努め収入増につなげていきます。

協力関係にある諸団体との協働によるプログラムやスタディツアーなどを進め、それらを通じてPHD活動への支援者拡大を図ります。

## 予算

収入の部 58,880,000円



支出の部 58,880,000円

東西南北  
問題解決  
取組日記

## ソロモンで聞いた話。

教育が大切であることに意義を唱える人はいないだろう。PHDの活動の起りにしても、岩村医師がネパールの人たちに能力がないから健康づくりができないのではなく、持っている能力を引き出す機会がないことに着目し、研修という支援を考えたわけである。

10年ほど前に南太平洋のソロモン諸島のひとつの村に滞在した時のことだ。村の長老と話をする機会があった。長老が少年、青少年時代にはこの村には学校はなかった。代わりに地域の年長の人々がこの村で生きていくために必要なことは生活の中で教えていた。数十年たった現在は村に学校が建てられ、旧宗主国のイギリス流を土台にした教育が行われるようになった。いわゆる読み書き、計算のレベルはあがった。しかし、逆に地域の一員として果たす役割を教わることがなくなり、村の共同作業等が成り立たなくなってきた。また優秀な若者ほど村の外へ出てしまうようになったと複雑な思いを語ってくれたことを思いだす。

教育を受ける機会があるかということが大前提ではあるが、その次にはその中身がどんなものであるか大切に

## 何のための、どんな教育。

る。学校の校舎がある、先生がいることも大事だが、それ以上に何を教わるか、何を学ぶかが大切ということだ。



個人にとってどうかという面と、地域というみんなにとってどうかという面での力点のおかれ具合が違ってくる。単純にどちらがいい・悪い、正しい・間違っているというものではない。研修生にとって何を学んでもらうかを考える時に、ここをどうとらえるかで内容が変わってくる。それは研修生だけにあてはまる問題ではなく、日本に住む私たちにも、同様に考えなければならぬことのように思う。

先のソロモンの話のように、いわゆる経済発展の途上地域の村の生活では限られた条件の中で生きていくために、ある部分、個をおさえ、みんなとともにという価値観が強かった。ところが、教育を受ける機会があるかということが大前提ではあるが、その次にはその中身がどんなものであるか大切に

## 特定公益増進法人の更新ができました。

寄付に対する免税の特典が与えられる「特定公益増進法人」であることの更新ができました。

PHD協会は小さいながらも、その活動の公益性が認められ、1984年5月より「特定公益増進法人(当時は、試験研究法人)」の認定を兵庫県よりいただけてきました。2年ごとの更新で、その都度、大変厳しい審査を厚生労働省、財務省からうけますがこの5月、改めて2年間の認定を得ました。この資格のある国際協力系の団体は兵庫県

内では2団体、全国でも50ほどです。この資格は活動に公益性があることから、個人の寄付は所得税法、法人の寄

## ▼寄付者が個人の場合

寄付金控除(所得控除)  
次の算式で計算した金額が「寄付金控除」として、所得から控除されます。  
※「寄付金の合計金額(所得金額の25%を限度とする) - 1万円」  
(例) 仮に、年収が1,000万円、5万円のご寄付をいただくと、「5万円-1万円=4万円」が寄付金控除額となり、「1,000万円-4万円=996万円」の所得に対して課税されることとなります。

きた。それは例えば日本が数十年かけて経験してきたことを、ほんの数分で知ることになっているように感じる。経済大国が物質的な豊かさを一方で得ながらも、多くの社会問題を抱えてしまっていることを、さらに凝縮した形で抱えることになるおそれがある。

## 自分にも、まわりにも。

経済発展しているところにも問題があり、まだのところにも別の問題がある。ということはどちらも完璧ではないわけで、それで困るから良くしていきたい。当たり前のように、ここを考えるための教育が必要に思う。自分にもまわりにもバランス良く、やっていける社会を実現するためにはどうすればいいのか。現実にモデルがないようなら、それを考えることが必要だ。PHDの研修は、現実的にはその難しいことをテーマにしているのだと思う。

自分のこと、自分が属するところだけの都合でモノを判断しない。他のこと、相手のことを常に意識していくことが必要なのだと思う。話が少し飛躍するかもしれないが、中国、韓国で起っている反日感情、行動とそれに対する日本側の態度の原因にも、同様のことをあてはめて考えてみたいと思う。

総主事代行 藤野達也

## ▼寄付者が法人の場合

次の(A)と(B)のどちらか低い額が損金参入額になります。  
(A) { (資本金×2.5/1000) + (所得額×2.5/1000) } ×0.5  
(B) 寄付金の合計  
※資本金10億で、その年の所得が3億円、1年決算の会社の寄付金の損金参入額は、1,000万円未満までです。  
(一般では500万円)

# 23期研修生 到着しました！！ 久し振りに男性ばかりの3人です。 研修生レポート

## タウンティンテーさん

☆村ではテーさんと呼ばれています。

## ビルマ(ミャンマー)



村の畑で仕事中のテーさん。

マンダレーから車で30分程のタウンティン村からやってきました。人口3500人の農村です。この村からはこれまで5人の研修生を招いてきましたが、8年ぶりの招へいです。5人家族で7haの田畑で米、瓜、ナス、トウガンなどの野菜、スモモやマンゴーを栽培し、牛も飼っています。

この地域からの初めての研修生ティアンウィンさん(92年度)が主宰する私塾の生徒でタウンティンさん、ムームーさん(93年度)トウトウンさん

(94年度)カインソーさん(96年度)の仲間です。村では農業のかたわらの仲間とともに村の子どもの就学支援、お米の銀行などの活動を行っています。日本では、米、野菜、果樹、養鶏の勉強に加え住民による組織の活動やその運営についても学んでいきます。

年齢や立場を重視するビルマ社会。研修生の中で一番年長者として「しっかりしなくちゃ」と常に自覚を持って1年間の研修にのぞみます。家族思いのやさしい彼をよろしくお願ひします。

### 好きな日本語「ごちそうさまでした。」

～食べ終わり自分の欲望が満たされた後でさえ周囲への感謝・有り難いという気持ちを表わしているから

33才 仏教 両親と妹、弟の5人家族  
研修テーマ：有機農業、保健衛生



神戸のホームステイ先、梶原さん一家と。

最初は犬がいると聞いて「嘩まなかつたら平気けど・・・」と怖がり気味だったテーさん。今では膝に抱いても平気。

日本のお風呂が大好きなので休日は、お父さんと一緒に銭湯へ行くのが楽しみ。

## ロナルドさん

## フィリピン



ちょっと緊張気味。自宅でパチリ。

ルソン島の中部、マニラから車に乗って5時間のヌバエシーハ州マリナオ村に住んでいます。人口2000人の農村です。

ここでは、米とその裏作の玉ねぎが主な作物で他の野菜も作ります。玉ねぎのほとんどが農業、化学肥料を多用する契約栽培で健康、環境面で問題があります。また周囲の山が伐採により木がなく、台風や大雨による被害がたびたび出ています。

村の生活を改善するためにGBPとい

う住民グループが組織されPHD協会はここを窓口として村の人々とつながっています。これまでに短期も含め近隣の村から7人の研修生を迎えています。奥さんと7月で1才になる子どもの3人家族、1haの畑で農業をしており、有機農業と大豆による食品加工も学びます。

最近ではシイタケの作り方に関心を持ち始めています。この1年間で日本の有機農業をフィリピンで応用できるようになることを目指します。

### 好きな日本語「がんばってください」

～友達や家族、誰でも声をかけることで前向きな気持ちになってもらうことができるから

27才 キリスト教 奥さんと子供の3人家族  
研修テーマ：有機農業、保健衛生



神戸のホームステイ先、光田さん一家と。

今までにも20を超える多くの国からホームステイを受け入れ大ベテランの光田さん。ロナルドさんの明るく親しみやすい人柄で楽しく過ごせているようです。休日には、草引きなどのお手伝いも。

## マスラルさん

## インドネシア



家の近くの田んぼを見回り。

西スマトラ州の州都バダンから車で3時間のタラタジャラン村(旧タペ)から来ました。標高1100mの山あいにある1400人の村です。

奥さんと2才の子どもの3人暮らし。結婚して02年に隣村から移ってきました。1.5haの土地で米、唐辛子、玉ねぎを作り、牛と鶏を飼っています。村の農業の振興の為にLESTARIという組織を作り同じ村の元研修生アルウィさん(01年度)とともにこのグループで活動しています。栽培する作物の少

### 好きな日本語「まだまだダメです。」

～今が完璧じゃない。常に前を向いて前進するための自分への戒めとして

30才 イスラム教 奥さんと子供の3人家族  
研修テーマ：有機農業、保健衛生



神戸のホームステイ先、葛原さん一家と。

ないこと、十分な知識がないまま農業をし、化学肥料を多用することなど課題が多くあります。

隣の村にも5人の研修生がおり、協力してこの地域を良くしていく計画です。日本では施肥づくりを基本にした米、野菜づくりの他、牛、鶏、淡水魚についても学んでいきます。

最近では、大工やオートバイの修理技術に関心があります。村に戻ったら自分で戸棚をいっぱい作りたいと夢は広がります。

前にもインドネシアからの研修生を受け入れたことがあり習慣や食べ物については理解がある葛原一家。家族みんなで散歩に行ったりと仲良しです。ゴールデンウィークには、兵庫県立フラワーセンター(加西市)で日本のいろんな花を鑑賞したそうです。

## 私の訪問記 VOL.1



4月20日(水)

日本に来たばかりで何もかもが新しいことばかりの研修生。18日から始まった日本語研修(神戸YMCA)は、今日で3日目。学校での3人の様子はどのようなだろう・・・ちょっと気になるので雨の中訪問してみました。

PHDの研修生への日本語研修は日替わりで5名の先生が担当されています。本日は、岡田静恵先生が担当でした。PHDの研修生を担当するのは2年目と

のこと。笑顔がとても可愛い先生で3人も楽しそうに勉強している様子です。

3人の印象を聞いてみると、「今年の研修生は非常に優秀でびっくり。宿題もきちんとしている真面目です。」と、お褒めの言葉をいただきました。テーさんはちょっとシャイだけど覚えるために必死でメモをとり、マスラルさんはちょっとした先生の間違えにも見逃さないほどのヒアリング力、ロナルドさんは常に明るく皆に気遣いをみせる3人のまとめ役。それぞれの良い点を適格に見つけてくれました。パランスの良い3人のようです。

この1年でどれほどレベルアップするの楽しみな3人です。3人はこの

先関心のある分野の研修を受けるため離ればなれになります。ここで勉強した日本語力を存分に発揮して1年の研修を充実したものにしてほしいです。

因幡美奈子



「私の訪問記」の記者募集  
PHDの研修、活動に参加して原稿を書いてもらえる方を募集しています。ご希望の方は「PHD協会・会報編集局」までご連絡ください。

## 22期生帰国、新たな旅立ちへ。

帰国報告会を終え、1年間の締めくくりを3月7日～16日、フィリピンのヌエバエシーハ州ガバルドンで行いました。22期生3人に加え、研修生を受け入れてくださっている農家の寺田正文さん（兵庫県豊岡市）、但馬PHDの曾我一作さん（兵庫県豊岡市）と共に、賑やかなそして学び多き10日間の研修となりました。



一時的に家計を支えている様子も見られました。

GBPのメンバーによる、在来種を使って作物の栽培、有機農法による稲作の試験的な取り組み、また、隣村の若いお母さんグループによる、月に1回の子育てや栄養についての勉強会など村の若いエネルギーに、寺田さんや曾我さんも感心されていました。こうした彼らの逞しさは、自然の中で生きることによって培われてきたものなのだ、私自身も強く胸を打たれました。

ハイディさんにとっては慣れ親しんだ場所での研修でしたが、日本での研

修を終えた今だからこそ違った見方ができたようです。ゾーウィンさん、アフリタさんも、村人の組織化を中心にそれぞれの村で取り入れられることを学べた研修になったと思います。アフリタさんは15日、ゾーウィンさんは16日に、家族に会える喜びと別れの切なさが入り混じり、それでも笑顔での帰国となりました。

国内研修生（当時）佐藤栄利子

※GBP…ハイディさんの村にある、生活向上のための住民グループ。今年度のロナルドさんもメンバーです。



## 研修生の村に学びに行こう！！ PHDの旅でアジア・南太平洋を訪ねた人がまもなく1000人

これまで日本に招いた研修生、ゲストの数は約250人。逆に日本から彼らの村をスタディーツアーで訪ねた人の数もまもなく1000人に達します。日本でできるだけいい研修をと皆さんが迎えてくださると同様に、ツアーでは村ひとが心から歓迎してくれま。村に滞在し村の生活を体験し、研修生のその後の取り組みを知る旅。今年の夏は3本を企画しました。お早目のお問合せ、お申し込みを。

### ■ビルマ（ミャンマー）ツアー

7/23（土）～7/29（金）6泊7日  
ヤンゴン・マンダレー・  
マンダレー近郊の農村  
参加費：21万+会費5千円 既会員 20.5万円  
申込締切 6/30（木）

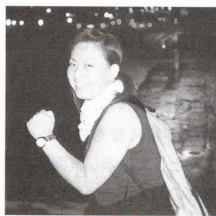
### ■フィリピンツアー

8/15（月）～8/21（日）6泊7日  
マニラ・ヌエバエシーハ州・オーロラ州  
参加費：16万+会費5千円 既会員 15.5万円  
申込締切 7/16（土）

### ■インドネシアツアー

8/23（火）～9/1（木）早朝 9泊10日  
シンガポール・西スマトラ州パダン市・  
ソロ郡・バリヤマン郡  
参加費：19万+会費5千円 既会員 18.5万円  
申込締切 7/23（土）

昨年のスタディーツアーに参加された2人に話を聞いてみました。



さあ出発！はりきる日野さんです。

### ～自分を見つめ直す旅～

04フィリピンツアー参加 日野ひとみさん

知らない人と、知らない町で、自分を全開にしたら、自分の生活が足元から見えてきた一週間でした。何が良いのか悪いのかじゃなく、その人らしさ自分らしさと現状を自覚すること、目標を持つことが生活の要になることを実感しました。

### ～あたたかさを感じに～

04インドネシアツアー参加 坂本真由美さん

研修生宅にホームステイし村の抱えている問題などいろんな話を聞きました。急激な開発で表面だけ発展し取り残されていく問題。ゴミや子供の健康、教育など。子供達は裕福じゃないと学校に行けない。だからすぐく学ぶことに意欲を持っている。観光だけでは見えてこないことを多く知ることができました。



インドネシア料理を満喫！

## 新人3人、よろしくお祈りします。



### 高垣隆博 たかがきたかひろ

大学生の時に国際協力への道に目覚め、紆余曲折を経て、4月よりPHD協会にて研修担当をさせていただくことになりました。農業に関する知識や、開発分野での実務経験はありませんので、これから研修生と共に自分も日々切磋琢磨していきたいと思っています。また、様々な言語に興味を持っているので、これを機になにかひとつ東南アジアの言語を学び、その国の文化を深く知る機会につなげたいと考えています。

### 佐藤栄利子 さとうえりこ

国内研修生を経て、4月より職員としてお世話になることになりました。前任の方々の思いを引継ぎつつ、私にできることをコツコツとやらせていただくとつもりです。たくさんの方々と関わられることに感謝しつつ、日々の暮らしの中にある小さな幸せをたくさん見つけながら、生活を豊かにしていきたいと思っています。『温故知新』を座右の銘に、大切なもの探し、“自分”育てをこれからも継続します。

### 因幡美奈子 いなばみなこ

4月より啓発・広報を担当させていただきますことになりました。愛媛生まれ愛媛育ち。大学で京都へ。そのころ国際協力に関心を持ち始め、その後大阪で様々な仕事に携わり今春神戸へ。甘いものと旅行、読書が大好きです。事務所内で一番食生活が乱れている（らしい）ので有機農業についても学んでいきたいです。手探り状態でまだ何もわからない私ですが研修生を通して自分自身も成長できたら・・・と思います。

## お疲れ様でした。

3月末で退職の前職員よりひとことを

### 納堂邦弘

国内研修生時代も含め5年半の在職中に、北は関東から南は九州（種子島）まで、海外ではインドネシア、タイ、バブア・ニューギニア、ビルマ、フィリピンを訪れました。国境、人種、方言（!?）等の壁を越え、多くの人と知り合えたことが一番の財産です。

今は東京のはずれで主夫をしながら次の道へ向けて充電中。国内外、急速に変化している時代の流れにPHDがどのように対応していけるのか、私も皆さんと共に未永く、時に厳しく見守っていただければと思っています。またどこかでお会いしましょう！

### 芳田弓生希

PHD協会での5年間に、多くの方々と出逢うことができ、出逢いを通じた気づきや学びは自分のあり方を振り返ることにつながりました。世の中の問

題と自分の見えないつながり、自分も加害者となっている事実に気づきました。つながりや人の気持ちを想像すること、自分の加害者の部分を減らすことを怠らざりたいと思います。

PHDを離れても、仲間と共に「共に生きる」ことを考え、足元での実践を続けていきたいと思っています。今までお支えいただき、元気をくださった皆さん、本当にありがとうございました。

### 寺田栄

3年間お世話になりました。皆様から心からお礼申し上げます。共に生きるとはどういうことか、研修生と接し、日本の皆様と話をし、深く考える機会をいただきました。問題ばかりが目につく日本社会で、生きる事に真剣に向き合っている方々に出会ったことで大きな勇気をいただきました。いただきっぱなしで職を辞すことになり申し訳

ない気持ちではありますが、またどこかでお会いできればいいなと思っています。心地よい暮らしの実現を目指す場所です。

### 古本妃留美

たくさんの方々のあたたかい言葉やご意見の中で充実した5年間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

PHDはこれから大変な作業に入っていきます。これまでの研修のあり方や村とのおつき合い、ボランティアとの連携、理事、評議員の役割などの見直しが迫られています。まず、風通しのよい組織であることが必要です。職員の限界からPHDの存在が決まるのではなく、ボランティアや指導者、職員、理事、評議員が力を合わせた皆さんの可能性からPHDが変わっていくことを信じています。

原稿到着順

## 個人情報の取扱いについて

財団法人 PHD 協会は、皆様の個人情報の重要性を認識し、その管理・運営に対し細心の注意を払っており、以下のようなガイドラインを定めて、皆様の個人情報に対する取扱いを行います。

### 1. 個人情報の利用目的

PHD 協会をご提供頂いた個人情報を主に以下の目的で使用させていただきます。以下に記した利用目的から大幅な変更が生じた場合は、ホームページにて公表いたします。

- ◆ 会報、イベント案内、活動報告等の情報をお届けするため。
- ◆ 領収書、お礼状をお届けするため。
- ◆ ご寄付やボランティアなどをお願いをするため。
- ◆ その他、PHD 協会から皆様へ連絡する必要が生じた場合のため。

### 2. 個人情報の管理・取扱い

PHD 協会をご提供頂いた個人情報

を厳重に管理致します。個人情報への不正なアクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏洩の防止に対し、適切なセキュリティ対策を講じます。また、原則としてご本人の同意を得ずに個人情報を第三者に開示しません。

### 3. 個人情報のご本人への開示

PHD 協会は、ご本人から PHD 協会が保有するご本人の個人情報の照会・変更・削除があった場合には迅速に対応いたします。

### 4. その他

PHD 協会では、3 ヶ月に 1 度発送する会報および年度報告書に以下の方々のお名前と都道府県名のみを掲載しております。ご本人から掲載を御希望されない旨のご依頼があった場合には匿名とさせていただきます。

[会報] 新入会員の皆様 及び、ご寄付(物品を含む)をくださった皆様  
[年度報告書] 会費納入の皆様

お問合せは佐藤まで

## 〇月×日のPHD協会

**職員 佐藤** 名前はサトエリ。見た目はオセロの中島似と一部で話題に。国内研修生から職員へは 3 人目。高垣君と共に和歌山出身で所内最大勢力。

**職員 藤野** 昨年度までのでテレビハングル講座の小倉紀蔵先生に似る。司馬遼太郎似とも。長野県飯田市→静岡→名古屋→東京、そして神戸。

**職員 高垣** PHD 協会の研修担当はこのタイプに決めていると言われるほど、前任者と瓜二つ。別の表現ではドラクドラゴンの痩せた方。

**職員 佐々木** 本人いわく、船越英一郎似、周囲の反応は弱し。生まれは札幌の近く、育ちは甲府、仕事に就いてから神奈川住まいで、3 年前神戸へ。

**職員 因幡** PHD の提唱者岩村昇医師と同じ愛媛県出身。50 代以上の世代からは若い頃の野際陽子似と。先日、出身高校から寄附があり、感激。

<以上、胃腸が強い順>

## PHD NEWS

### ◆ 会費・ご寄附寄託情報

2005年2月	87件	2,095,907円
3月	115件	1,703,974円
4月	53件	415,729円
計	255件	4,215,610円

以上の通り、多くの皆様よりご浄財を頂戴しました。ご支援・ご協力に心より感謝申し上げますとともに、皆様より継続して会員としてのお支えならびにご寄附のご支援を賜れますよう努めて参りたいと思っております。

## PHD ボランティア募集しています

PHD を一緒に作ってみませんか？あなたのお知恵、特技を活かして下さい。何気ない会話からアイデアが浮かんだり、思わぬところで仲間ができたり、自分の才能に気付いたり・・・。そんな場所になりたいと思います。

◆ ホームページ・会報・チラシの作成  
企画・レイアウト等

◆ 勉強の企画・運営  
国際協力についてのワークショップ等

◆ 外国語の資料の翻訳  
アジアの言葉・英語

◆ 研修同行  
海外研修生の学びの現場へ

◆ 各種事務  
ハガキ・クーポン類の集計、切手・カードの仕分け、入力等

### ◆ 理事が交代しました

5月18日開催の第56回定例理事会において、理事の西田裕氏が辞任し、代わって丹羽修氏が就任いたしました。

### ◆ 事務所を少し模様替え

カフェコーナーもできました。職員一同お待ちしております！



## 第 10 期国内研修生募集

国内でも平和と健康を担う人材を育成しようと 95 年より実施している国内研修生制度。今年も 1 名募集します。募集要項をお送り致しますのでお問合せ下さい。

内容：PHD の事業を通じた実施研修  
1) 海外研修生の研修事業を軸とする実践

2) 国際理解・開発教育等国内に向けた啓発活動

3) 公益法人における組織運営

対象：日本国内居住者、日本語でのやりとりが可能で、将来、開発協力・教育・福祉等の分野で働くことを志し当会事務所に通える方。

◆ 研修日程：10 月より 6 ヶ月間  
(週 3～5 日) 1 月に国内、3 月にフィリピンへの研修旅行あり。

◆ 時間：原則午前 9 時～午後 6 時

◆ 支給経費：研修手当及び交通費

◆ 選考：書類審査後、筆記・面接  
(8 月 2 週目を予定)

◆ 募集締切り：7 月 30 日 (土) 必着